

相澤病院を受診された患者さんへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名 (研究番号)	4mL を超える中型から大型の後頭蓋窩脳転移に対する段階的的定位放射線単独治療についての効果・安全性に関する後方視的研究 (承認 No. 2023-097)
当院の研究責任者 (所属・職名・氏名)	四方聖二・ガンマナイフセンター長
他の研究機関および 各施設の研究責任者	備考をご覧ください
本研究の目的	<p>後頭蓋窩は容積が小さく、占拠性病変が生じた際の緩衝能力が小さいことが特徴です。そこで占拠性病変の体積が一定以上になると閉塞性水頭症や脳ヘルニアを来すことで神経症状が急速に悪化することに繋がり、緊急的の外科処置を要することもあります。従って、後頭蓋窩に発生した脳転移に対しては特別な注意が必要と考えられます。</p> <p>治療の主体は腫瘍摘出術ですが、欠点としては治療侵襲が大きく、期待余命の短い患者さんや制癌状態の悪い患者さんではその適応が躊躇されることもあります。また後頭蓋窩脳転移は摘出術後に癌性髄膜炎を合併しやすいことが多くの先行研究で示されています。癌性髄膜炎は治療困難な病態であり、長期の生存確率は極端に低下します。そのため、近年では術前照射を行った後に腫瘍摘出を行う新たな治療法も登場しており、従来の術後照射との比較研究が進められています。一般的に大きい転移巣に対する単回定位放射線治療は再発や脳放射線障害のリスクが高いとされ、段階的的定位放射線治療や寡分割定位照射の有用性がこれまで複数報告されています。しかし、後頭蓋窩における中型から大型の転移という治療リスクの比較的高い症例に対象を絞った報告はまだ非常に少ないのが実情です。そこで当院では 4mL 以上の体積を有する中型から大型の後頭蓋窩脳転移を対象として、段階的的定位放射線単独治療を行った症例を後方視的に調査し、全生存期間、神経死発生率、癌性髄膜炎の合併リスク、放射線有害事象の発生リスクなどについて調査し、この治療法の有用性と安全性について明らかにすることを目的として本研究を実施します。</p>
調査データ 該当期間	2009 年 10 月から 2023 年 9 月まで
研究の方法 (使用する試料等)	<ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さん 上記該当期間に、4mL を超える中型から大型の後頭蓋窩脳転移に対して段階的的定位放射線治療による単独治療を受けた患者さん ●利用する情報 電子カルテに記録された診療録(患者背景、臨床経過、治療内容、ガンマナイフ治療時の症状や腫瘍の状態、治療後の経過) ●研究期間：2024 年 2 月 1 日～ 2024 年 12 月 31 日
試料/情報の 他の研究機関への提供	他の機関への試料・情報の提供はありません

様式 16

<p>個人情報の取り扱い</p>	<p>利用する情報から個人の氏名、生年月日、電話番号、また診療情報等、個人を識別できる情報などの個人情報を削除して患者さんを直接特定できる情報は削除致します。また、研究成果は学会・論文等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。</p>
<p>本研究の資金源 (利益相反)</p>	<p>本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません</p>
<p>お問い合わせ先</p>	<p>相澤病院 がん集学治療センター ガンマナイフセンター長 四方聖二 Tel : 0263-33-8600(代表)</p>
<p>備考</p>	<p>当科にご紹介を頂いた医療機関に診療情報の提供をお願いすることがあります。</p> <p>安曇野赤十字病院 飯田病院 飯田市立病院 飯山赤十字病院 一之瀬脳神経外科病院 伊那中央病院 小林脳神経外科神経内科病院 昭和伊南総合病院 市立大町総合病院 信州上田医療センター 信州大学医学部附属病院 諏訪赤十字病院 諏訪中央病院 高山赤十字病院 長野県立木曽病院 長野市民病院 長野赤十字病院 北信総合病院 穂高病院 まつもと医療センター 松本協立病院</p>